

## 都心のオアシス

# 鴨々川

中島公園のわきを流れ、コイの放流や水遊び場などで皆さんに親しまれている鴨々川を紹介し  
ます。

創成川の上流にあたり、南一七条西四丁目の豊平川の分岐点から創成川の始まる南六西一までの二・五<sup>キ</sup>が鴨々川と呼ばれています。

しかし、名前についての定説はなく、札幌の街づくりの根本とした京都の鴨川にちなんで付けたという説や、アイヌ語でサケを採る道具「カモカモ」から付いたという説もあります。このほかに、明治十五年（一八八二年）ころ中島地区一帯が鴨鴨中島と呼ばれており、そこに流れている川なので鴨々川と呼ばれるようになったという説もあります。

明治のころには現在の南七条付近の川沿いにリンゴやナシの果樹園もありました。住宅が多くなってきたのは大正七年に開道五十年記念博覧会が中島公園で開かれたころからです。



昭和初期の鴨々川（札幌市教育委員会文化資料室所蔵）

昭和三十年ころまでは川の水がたいへん奇麗だった  
たので、染めた反物を川の水を利用して水洗いをする  
呉服屋や染物屋が多かったそうです。

しかし、住宅が増えるにつれて川に流される生活排水  
水や、空き缶などのごみが捨てられ汚れてきました。  
その後、下水道の普及や川の清掃の奉仕を続けている  
町内会の活動のおかげで清流が戻ってきました。

現在の鴨々川は、五十年に始まった整備で、水遊び  
び場やコイの放流施設のほか川沿いに歩道が整備され  
ていて絶好の散歩道となっています。

コイの放流施設は、萩市や岡山市、津和野町などを  
参考として五十五年に藻山橋もざんの両側二百五十メートル



区間に造られたものです。五十七年からは川沿いの  
住民がつくった鴨々川鯉愛護協力がコイを放流し  
たりエサをやったりしています。この施設には、毎  
年五月始めから十月末まで約千匹のコイを放流し市  
民の目を楽しませていきます。

なお、平成九年秋から十年にかけて、白鶴橋から  
下流二百七十メートルの区間が水と親しむことができる川  
に整備をしました。

(平成九年五月号・第三十八回)